

第5期第12回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2021年11月26日（金）14:00～16:00

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 学習室1・2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、相澤真理、大野浩子、山口隆三、
荒井仁、関村浩、服部くに子、西澤正彦（以上9名）

〔欠席者〕 荒井容子、堂前雅史

事務局：樋口センター長、持田担当課長、岡田管理係長、瀧澤事業係長、鈴木担当
係長、田中主事

〔傍聴人〕：なし

〔資 料〕【1】 生涯学習審議会答申

【2】 2021年度上半期事業報告

【3】 第12回課題提出資料

【4】 東京都公民館連絡協議会委員部会資料

1 報告事項

（1）センター長報告

- ・新型コロナの影響について、終息傾向にあり、12・1月の7階フロア貸出再開を予定。2月から第3回目ワクチン接種の話が来ているが、詳細は未定。
- ・主な事業の実施状況について、開館10周年の節目に当たり、センターまつりは大々的にと考えていたが、新型コロナの影響により、去年に続き、オンラインで実施。10周年記念行事は来年できればと考えている。前回、なんでもスマホ相談室を新規に始め好評を博している旨報告したが、予約が殺到したため、事業を拡充し、規模を倍にした。
- ・生涯学習審議会での審議について、10月1日（第10回）、10月29日（第11回）に審議会が開催され、11月18日「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」答申が提出された。冊子を配布しているので確認いただきたい。

《答申の概要》

○課題分析

（1）事業の整理と生涯学習支援にかかる機能の充実

町田市生涯学習センターとして比重を置くべき事業を整理し、新たな事業に取り組むための余力を生み出す必要がある。

（2）学習機会や情報発信の機会の充実

誰もが学べる環境をつくるため、場所や時間の制約なく学習機会につながる

よう環境を整備する必要がある。

(3) 社会的課題の解消につながる学びの提供

社会環境の変化に対応して市民が豊かな人生を送ることができるよう、社会的課題を的確に捉えた学習を適宜提供する体制を整える必要がある。

(4) 「町田市生涯学習センター」の認知度の向上

多くの市民に認知され、愛着を持ってもらうためのきっかけとなるよう、現在、生涯学習センターと公民館の2枚看板になっていることも含め、施設名の整理や改称の検討が必要。

(5) 専門性の発揮

生涯学習に関する専門性を備え、それを発揮できる民間事業者などの活用を検討する必要がある。柔軟な勤務体制や臨機応変な支出が可能な民間事業者のメリットを十分に発揮してもらうための工夫が必要。

(6) 見直しの確実な遂行

見直しを進めるための実行体制を確実に整える必要がある。

○目指すべき姿について

運営理念を「学びに出会う機会と学習成果をいかす機会を提供するための中核を担います。」と定めた。

(1) 事業の整理、及びリソースの再配分

今後重点を置く事業を明確にしたうえで、事業の整理を行い、生み出したリソースを再配分すること。全体コーディネートについて再認識すること。”ハブ機能”をしっかりと担うこと。

(2) デジタル技術の活用推進

場所や時間の制約なく学べる環境を充実させるため、積極的にデジタル化を推進すること。学ぶことに支援を必要としている方に向け、身近な地域での学びを提供するなどの配慮をすること。

(3) 社会的課題への迅速な対応

新たな社会的課題に迅速に対応するため、事業内容の精査や新設及び廃止の検討を確実にを行う体制を整えること。事業全体の調整役を生涯学習センター運営協議会が中核となり担えるような体制を整えること。

(4) 名称の整理

町田市生涯学習センターが設立された際に重点を置くべきとされた「生涯学習支援にかかる機能」の充実を確実にを行うことを示すため、名称の整理を行うこと。認知度の向上及び施設への愛着の形成につながるよう工夫すること。

(5) 民間活力の導入

“行政でなければ担えない機能”と“民間のノウハウが活かせる機能”を整理した上で、後者については民間活力を導入していくこと。

＜民間活力導入の留意点＞

- ◆町田市生涯学習センターの役割を十分に理解できる事業者を選定すること。
- ◆事業者からの提案を採用する仕組みを設けること。
- ◆運営理念に沿っているかなど、チェックする機能を設けること。
- ◆市民・行政・事業者が協働して町田らしい新たな価値を創造できる仕組みを検討すること。

(6) 効率的・効果的な運営を推進する実行体制の整備

本答申を踏まえ、実行計画の作成や、生涯学習組織の改編を行うなど、確実に見直しを進めること。

本答申及び、現在、運営協議会で検討いただいている2020年3月答申を受け、今年度中に生涯学習センターのあり方について、基本的方向性を定め、2022年度に具体的な実行計画を定めていく。

現在検討いただいている運絵協議会報告「市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進について」の報告内容についても実行計画に反映。また、来年度の実行計画検討に際して、次期運営協議会からもご意見をいただきながら進める予定。

【委員質問・意見➡事務局回答】

・基本的な方向を今年度中に定めること。来年度具体的な実行計画を定めること。この2つにこれから取り組むが、現在、運営協議会では前回の中間報告を2020年3月答申の4つの役割を踏まえ、最終報告にすべく議論している。最終報告はどこに影響するのか。また、今回の2つ目の答申はどこに影響するのか。説明をお願いしたい。➡基本方針、実行計画を、この後定めていくが、基本方針については市で案を作成し、後日お示ししたい。実行計画については、基本方針に沿って来年度作成。最終報告や次期の運営協議会の意見を伺いながら、アクションプランという形での作成となる。

・審議会答申は、記載が具体的でない印象。もう少し踏み込んだ記載をしてほしい。また、社会的課題への対応等の内容が重複していると思われる部分や、主語がはっきりせず誰がやるのかわかりにくい部分がある。また、答申13頁の上から5行目に運営協議会に関する記載があるが、審議会と意見を交わしておらず、唐突な印象を受ける。

【会長】いただいた意見も踏まえ、議論する機会を設けたい。

(2) 会長報告（生涯学習審議会）

【会長】概要はセンター長から報告があったため、追加する形で報告。生涯学習審議

会に参加し、運営協議会と審議会の橋渡し役を務めてきた。審議会の委員がどのような考えで審議しているか理解を深めるため、社会教育委員の話し合いに参加した。

審議会で生涯学習センターへの答申が繰り返し行われるのは、生涯学習センターへの期待がそれだけ大きいことだと改めて感じた。その中で新型コロナ等の様々な要因があり、時代が変化する中で、今までのものを大切にしたい思いを、運営協議会の中でも協議し、審議会にも伝えてきたが、同時に変わって欲しい思いもあると感じた。具体的には、生涯学習のハブ機能を適切に行うこと、名前のあり方等も含め、考えていくことになる。

学校の統廃合が進む中で、学校のコミュニティ化、子どもだけでなく地域のためにもコミュニティスクール化が進んでいく中で、学校の先生だけでは難しい。地域の活躍できる仕組みを生涯学習センターに期待している点がある。

生涯学習センター運営協議会と生涯学習審議会の関係性。審議会でも審議し、運営協議会でも話し合っている中、これらがどこに反映されるのか、運営協議会委員からも意見のあった誰が反映していくのか、という点では様々な議論があった。

基本的な方向を定め、来年度具体的な実行計画を作っていくといった時期に入っていると説明があった。これで一つの結論が出たということではなく、これを受け止めて私たちがこれから何をしていくのか。審議会の場でも「答申を出したので、あとは生涯学習センターに任せる」ということではなく、一緒に力を合わせていきませんかというお願いをした。何名かの審議会委員からも手伝うと、回答をいただいた。誰かが誰かに言いつばなしということにならないように提起していきたい。

(3) 東京都公民館連絡協議会報告

○西澤委員から資料に基づき報告

- ・延期になっていた委員部会第1回研修会の開催が12月15日に決まった。
- ・公民館研究大会はオンライン開催となった。委員部会の担当する課題別集会は12月11日に収録を行う。
- ・関東甲信越静研究大会もオンライン開催となり、10月29日から配信を行っている。

【事務局】第1回研修会について、事務局から補足。当日、担当委員のほか、2名の出席と4名のオンライン参加枠が町田市分として用意されている。参加を希望される委員いるか。(1名出席希望あり)

・研究大会の募集を事務局で行ったが、研究大会の課題別集会は、委員のみ参加の収録となっている。また、「新型コロナウイルス感染対策下における公民館の役割について」国分寺市の公民館運営審議会が答申を行った。興味のある方は国分寺のHPで確認いただきたい。

(4) 町田市生涯学習審議会答申について

【会長】報告(4)「町田市生涯学習審議会答申について」は冒頭、センター長報告で説明があったので、割愛して議題に進む。

2 議題

(1) 2021年度上半期事業分析について

【事務局】(事務局による資料説明)

【委員質問・意見➡事務局回答】

生涯学習推進事業について

・特別教室について、アクセスの悪さと利用団体の固定が課題に挙げられているが、見方を変えると、それでもこの学校が使いたいというニーズがあると取れる。どういった傾向があるのか。➡学校の属する地域の自治会・町内会・管理組合等の地域組織や、普段から学校校庭・体育館で活動している野球やサッカー等の少年スポーツ団体の会議等、地域・学校に根付いている組織から一定の支持をいただいている。

・これまで運営協議会で、新型コロナウイルスの影響について、ワクチン接種会場の偏りの問題や時短に伴う使用料の減額などの意見があった。今後、想定される第6波に対し、検討はされているか。➡基本的には、国・都から通知に基づき、その都度、市の対策会議で決定し対応している。ワクチン接種会場が生涯学習センターに偏り、利用者の活動が制限されていること。夜間閉館時に、夜間の利用区分が短縮されたが、使用料金が軽減されないことに意見が出ていることは、部を通じ、対策会議にも報告している。第6波の際には、これらを踏まえ、対策会議が方向性を定めることになる。

公民館事業、ことぶき大学事業、市民大学事業について

【委員質問・意見➡事務局回答】

・平和祈念事業について。昭和39年に町田で米軍機墜落事故があったが、跡地はどうなっているのか。➡生涯学習センターでは情報を持っていない。企画政策課で記録誌を作成していたかと思う。

(2) 審議会答申・改革プランを踏まえた生涯学習センター事業の推進について

【会長】前回に続き、役割(4)「学びのネットワークづくりを促進する」について検討。6名の方に課題を提出いただいているので、説明をお願いしたい。

・連携を深めるべき分野がテーマと受け止めた。経験上、連携を深めてもらいたいのは地区協議会。鶴川地区で行われている3水スマイルは、非常に好評だと思う。このスタイルを各地区に提供して欲しい。3水スマイルの手法を参考に、各地区で体制作りができれば良いと思う。

・市民との連携は必要だが、スキルを持つ個人や団体が市内にいると思う。高齢者は現役時代に様々なスキルを培っている。こうした人を把握する取り組みが必要。

・現在も取り組んでいる、大学等教育機関との連携。これも継続する必要がある。

・生涯学習センターがやるべき取り組みについては、3つ上げている。①ハブ機能の発揮②環境整備（地域で団体が活動するための支援）③山積する地域課題の解決に向けた取り組みの3点が必要。

・コミュニティスクールとボランティアコーディネーターが重要だと思う。地域の核が地区会になるのか、コミュニティスクールになるのか考えていきたい。

・生涯学習事業を進めていく上で、重要なことは何をテーマにするかだと考え、生涯学習を通じて学ぶべき4つのテーマに整理した。①人類共通のテーマである「地球温暖化」に代表されるSDGs。②新型コロナウイルス感染症拡大もあり、「生命科学（バイオ科学）」。③JAXAに近いこともあり「宇宙科学」。④日本人の死因のトップである「癌」の問題。このような、今でも解消が見出されていないものが、生涯学習に相応しいテーマだと思う。

連携主体については、人類共通の課題なので、インターネットで調べれば、すぐに出てくる。連携手法については人類共通の課題で、日本として考える必要がある。例えば、ごみの分別処理。これはSDGsから来ている。どうして、今、そのようなことが日常生活に影響しているのかを理解する必要がある。

・ピンポイントの話になるが、現在、町田市内には小学校が42校、中学校が20校あり、それぞれにボランティアコーディネーターが配置されている。今回、統轄している小学校5校、中学校2校から意見集約を行った。

・課題に例示されている高校生・大学生向けの講座事業はとても良いと話があった。生涯学習センターは、高齢者が集まる場所というイメージがあるので、それを払拭するため、若者に目を向けていくべきという意見が多かった。若いうちから講座に参加することで、地域に根付く大人になれるのではないかという意見が多かった。

・連携先としては、子どもセンターや高校・大学となる。連携手法としては、講座の開設やセンターまつりの開催において、高校生や大学生の意見を取り込めるシステムにし、生涯学習センターが子どもセンターや高校・大学に事業の周知を依頼するというようなことが考えられる。

地域団体のネットワーク作りを促進するため、生涯学習センターが実施していくべき取り組みについては、先ほど高校生や大学生向けの講座実施の話をしたが、いきなりそこにたどり着くのではなく、子どもの頃から生涯学習センターの役割を知ることが大切なのではないか。そのために、地域の小中学校での活動展開が重要になるのではないか。以前、活動団体の冊子が配布されたことがある。今はホームページ等で紹介されているが、コーディネーターが活動していると、そのような冊子があるとすぐに活動内容やどういったスキルを持った方がいるのか確認でき、とても便利。できれば市内各校に配布してほしいという意見が多くあった。

- ・ある中学校で、訪問支援学習に協力いただける英語の指導者を探しているが、例えば生涯学習センターの講座受講者はもちろんだが、受講者の伝手をたどっていくことも考えられる。人材バンク的な役割だと思うが、そのような協力依頼にも応えていくと、もっと生涯学習センターの幅が広がるのではないかと意見があった。

- ・障がい者について絞って作成。私が所属する町田市障害児者を守る会（すみれ会）は、設立50年を迎える。そこで親御さんに伺ったところ、青年達の日中活動の場が、町田市に一つもない状況。障がいを持った子どもは、作業所が終わったら、その後の時間を家で過ごさなければならない。用事があると、レスパイトケア（事務局注：介護者が一時的に介護から解放され、休息を取れるようにするための支援）を利用するが、日中活動の場があると、青年たちも有意義な時間を過ごせるのではないか。他市では実施しているところもあり、資料の裏面に記載。他市では実施し、町田市では実施できないことを障がい者の親は不思議に思っている。

- ・日中活動の場の実現には、障がい福祉課と市内の各作業所が連携する必要がある。すみれ会は、障がい福祉課と毎年懇談会を行い、実現を要望しているが、町田市にはその動きはない。実現に向け、常に取り上げていくことをすみれ会で申し合わせている。日中に有意義に過ごせる場所は青年達に、必要であると知っていただきたい。

- ・学齢期の子ども達は放課後デイ等の様々な支援があるが、青年達にその場がない。余暇活動について、すみれ会で調査しているが、青年学級を始めとし、市内に約20箇所のサークルや親の会が運営している会、スポーツクラブ等がある。しかし、月1回等の単発的な活動なので、いつでも希望する時に利用できる活動の場が欲しい。2番目のテーマは、生涯学習センターがハブ機能を発揮することに尽きると思う。

- ・生涯にわたる学習という視点ともう一つ、対象という視点がある。先ほどの委員の意見は、対象の中の地域の視点だったと思う。先ほどの事業報告でも、子どもや家庭支援が多く部分を占めている。障がい者青年学級もあり、障がい者分野もない訳で

はない。だが、対象の中に非常に薄い部分があると感じる。いくつかあるが、その一つが現役世代。現役世代は学ばなくていいのかということのようなことではない。資格取得だけでなく、自分の学びたいことや仕事に役立つこと、会社ではやってくれないこと、これをやるのが市民大学だと思う。

もう一つは若者・若者対象の事業がどのくらいあるか。都公連研究大会の課題別集会で、国立市が学芸大学の学生や留学生を集めて学生主体の報告会を行う予定だが、町田市にも大学は多くある。さがまちコンソーシアムや、学生活動報告会「ガクマチ EXPO」には、多くの学生が参加しており、連携する必要がある。しかし、こうした学生と何か連携できないと話をする、「4年生なので、卒業する」という話があった。学生団体は毎年リーダーが変わってしまう。そのようなグループとどう関わりを持つかという課題がある。

・若者は学生だけではない。半数近くは大学に行っていない。若者の発想や考え方が大事。高校を卒業し、社会に出ていく若者をまとめるのは難しい。そのため、学生団体と連携するのが良いと思う。個々の学生団体をあまり知らないで、学生団体のリーダーがどう決まるか分からない。学生活動報告会や成人式の実行委員会を統括している若者と、生涯学習センターがどう関係性を持つのか。若者を取り込むという議論は今に始まったわけではない。このような意見が繰り返し出されている。

今後、そのようにならないために、イベントや講座を若者が発想・企画し、運営。そこに生涯学習センターがどう関係するか。そのようなシステムをどう作るか。どう連携するか考える必要がある。そのために、どのような若者が活動し、何を望んでいて、生涯学習センターがどう関係できるかを知ることが必要。

・以前、配られたアンケートに若者の希望することは記載があったと思う。

・事業分野にデジタルデバインドと記載。渋谷区では民間企業（KDDI）と連携し、年間約7万台のスマホを提供して、学習会やアフターサービス等を行っていた。某携帯会社では、総務省の事業を受託し、利用者への支援を自治体向けに始めている。総務省でも、令和2・3年度に会津若松市でデジタル活用支援員地域実証事業を実施している。支援員の育成や支援員を活用した相談会の実施等が行われている。

・町田市はどうか調べたところ、今年度の6月補正で予算が組まれているが水準が低いと感じた。生涯学習センターがすべて、行うわけではないと思うが、一緒にできそうと感じたのが、3水スマイルラウンジで行った、スマホを学んだ後にスマホを使うことが前提の講座の開催。また、自分の好きなものをスマホで撮影し、みんなで見せ合い、使うことが前提の講座を企画できれば良いと思う。

・事業分野について、相談・支援の中で、様々な箇所ではグレーゾーンがあり、サービスの狭間に落ちてしまう子や親子が多い。そのような方に向けた講座等ができれば良いと思う。不登校の陰にディスレクシア（事務局注：文字の読み書きに限定した困難さを持つ疾患）があったり、あまり聞いたことのない障がいだと思うが、字が認識できなかつたりする。親もそれを知らず、後でわかることもある。このようなことに特化した講座を、生涯学習センターが実施していただきたいと思う。

・地域団体のネットワーク作りの促進について、資料を見ると既に様々な連携をしており、新たなものよりも、今行っているものをより発展させた方が良いと思った。学びのすそ野にもつながると思うが、オンライン化やできない方の解消をし、そのような方と更に繋がっていくことや、生涯学習センターまつり等もマンネリ化しているので、更に進化させること等が考えられる。

・ネットワークづくりを促進することについて、仕掛け作りが必ず必要。例えばイベントや、発表の機会を設けてもいいが、そういったものを設定し、今活動している子育て団体と外部の団体の交流の機会を設けることも良いと思っている。

・既に市民活動で実施しているまちカフェや、準備段階に入っている子育てフェス等では、毎日のようにやり取りが行われている。そのため、このような一つの目標や、共通の目的があると、活発にネットワークを組むのではないかと考えている。

・予算の拡充と職員の人員増があれば、すべて実現できると思う。

【会長】続いて、副会長に説明及び進行を含め、副会長にお願いしたい。

【副会長】一つ目は、地区協議会との連携を進めたらどうか。二つ目が地域団体のネットワーク作りの促進ということで、既に取り組みされていることだが、利用者団体交流会をどう活用するか考えるのはどうか。イメージで書いているところもあるが、団体間の交流をしつつ、まず参加されている方と一緒に「そもそも生涯学習センターはどうあるべきなのか」という学習を一緒に行えないか。23区のある施設では、前半に講師を呼び、施設のあり方について学習会を行い、後半におでんパーティーで、参加者がおでんを食べ、語り合う交流会を実施している。そこで参加された方がお互いに関わりながら、「ここで一緒にこんなことできる」「実はこのようなことで困っている。何か教えてくれないか」というようなことも生まれるかもしれない。そのように利用者団体交流体をラフな形で行う。新型コロナウイルスの関係で、飲食は難しいと思うが、今後、可能になると思うので、ラフに語り合い、職員も関わり、会議では聞けないようなことを聞き、何かネットワークが作れると良いのではないかと記載した。

【副会長】今までの発言を受け、何かあるか。

・利用者交流会について補足。この春に、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できなかったが、生涯学習センターでは利用者交流会を実施している。センターまつりには約50団体が参加しており、センターまつり参加者を対象にした事業で、参加者をテーマ別に分け、分科会を開催し、分科会ごとにまとめた結論を発表する形で開催。センターまつり参加者だけが利用者ではないため、現在、公募の実行委員会方式で開催。実行委員が毎年テーマを決め、テーマに沿った講師を呼び、全体講演の後、分科会に分かれている。

・事前に配布された資料全てに眼を通して感じたことだが、根本的に間違っていると思う。生涯学習を、地域学習であると勘違いされているのではないか。生涯学習は名前どおりの解釈でいくと、生涯を通じて学ぶということ。生涯学習センターのテーマは、生涯を通じて学ぶべき事柄であるべき。地域の問題は「従」であり、「主」は生涯を通じて学ぶことである。そこを踏まえていないので、地域に係る問題ばかりが話し合われている。だから、若者が集まらない。若者は将来のことを考えている。

【副会長】様々な意見を伺い、報告書としてまとめていきたい。今回、出てきた意見を拝聴し、共通して出てきたのが、教育福祉だと思う。教育の対象になりつつも福祉の対象にもなっている方。教育と福祉の谷間に落ちてしまう方がおり、本来、福祉の対象になる人にこそ教育が必要だが、福祉の対象になることで教育の対象から外れてしまう。このような教育福祉の問題を研究している人もいる。教育福祉問題を抱えている人に対し、生涯学習センターが積極的に学びの機会を提供する。そこに課題を見つけながらアプローチしていく必要がある。今までも話されていたが、ここで改めて光を当てている意見が多いと感じた。アプローチの仕方は様々だが、今までの議論にあったよう、そのような方だからこそ声を上げづらく、生涯学習センターに来る時間も取れない。生涯学習センターが1館しかない中で何ができるか。再度考える必要があり、問題領域として、教育福祉のように言葉にして、そのようなところにアプローチすることは記載できるのではないかと感じた。たたき台を作り、皆様に意見をいただき反映することになるが、その際は教育福祉も意識し、記載したいと思う。

3 その他

(事務局より次回日程の説明)